

年頭にあたり 人間性豊かな人材育成

創立130年へ向け新事業スタート 理事長 出牛 正芳

年頭にあたり 21世紀ビジョン「社会知性の開発」

具体的促進に向けて 学長 日高 義博

副学長に高橋祐吉経済学部教授

大学運営の円滑化担う

学位を取得

小沼堅司法学部教授が7月25日付で明治大学から博士(政治学)の学位を授与された。学位論文名は「ユートピアの鎖—全体主義の歴史経験—」。

小沼教授は明治大学大学院政経研究科博士課程単位取得。76年(昭51)本学専任講師、80年(昭55)助教授、86年(昭61)教授。

主な担当科目は西洋政治思想史など。

日本税理士会連合会から商学部に寄付講座

05年度から3年間



商学部創設40周年記念事業として会計学研究所(奥村輝夫所長)主催の講演とパネルディスカッション「税理士はこんなに面白い」が12月7日、生田キャンパスで開かれた。写真。会計学科の学生ら約200人が先輩の貴重な体験談を傾聴した。専修大学会計人会会長の高橋貞雄氏(昭37商経)が「計理専修の歴史」を、宮川雅夫氏(昭53商)が「税理士制度」を、吉田伸江氏(昭52商・昭54院商修)が「税理士の日常業務」を、榎本恵一氏(昭61商・平14院商特別研究生)が「会社経営と税理士」をテーマに講演した。柳裕治教授の司会によるパネルディスカッションでは、税理士を志した動機や試験の苦勞、仕事の醍醐味、今後の展望などが話され、高橋氏が「計理専修の歴史を消さぬよう、我々も応援している」と激励。「専門家として独立した仕事が出る」(宮川氏)、「性別に関係なく活躍出来る」(吉田氏)、「経営のよろず相談所であり、納税者の味方」(榎本氏)と税理士の“魅力”を紹介した。

「計理専修の復活を」

先輩税理士が学生を激励



▲ 森金次郎会長(左)から目録を手渡される日高義博学長

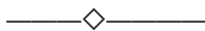
商学部に日本税理士会連合会からの寄付講座が05年度(平17)から3年間開設されることとなり、12月21日、同会理事会の席上で、森金次郎会長から日高義博学長に「租税法教育助成金目録」が贈呈された。その後、講座のコーディネーターを務める松原成美商学部教授が「国際会計基準における我が国の対応」をテーマに記念講演を行った。



▲ 記念講演を行う松原教授

05年度は前期に13回、本学卒業の税理士が講師となり「税理士制度の社会的役割」「中小企業に対する税務会計の事例」等のテーマで講義を行い履修者に2単位が認定される。

同会では、大学における租税法および税理士制度に関する教育・研究活動の助成を行い、教育の現場を通じて税理士制度の普及を図るため、95年(平7)から延べ11大学で講座を開設している。



専修大学会計人会(高橋貞雄会長)では、寄付講座の講師結団式を12月3日、神田キャンパスで行った。席上、三島英雄専務理事が「日本税理士会連合会ならびに卒業生の税理士の皆さまのご協力に感謝します」とあいさつした。

訃報

高柳信一氏(たかやなぎ・しんいち)元法学部教授

12月16日、肺炎のため死去、83歳。告別式は同19日、東京・江古田斎場で執り行われた。

東京大学名誉教授。82年(昭57)から本学で教鞭を執り、92年(平4)3月定年退職。

【ニュース専修2005年1月号2面】